



考える葦



下野市立古山小学校
校長室インフォメーション
令和元年度 NO. 2
令和元年10月16日
発行責任者 梶原 和子



今年は、各地で大雨の被害があり関東でも千葉県の大規模の停電・断水については、皆様も記憶に新しいことと思います。現在も被災された方は不自由な生活を余儀なくされていることと思います。被災された方に心よりお見舞い申し上げます。幸い、本校では台風等自然災害による被害の報告はありませんでしたが、今や災害国日本と呼ばれるくらい毎年のように大きな自然災害が日本各地で起こっています。もしものときに備えて避難経路、非難場所、防災用品等の確認をしておくことが大切だと改めて感じさせられました。

台風や大雨も一段落し、秋らしい過ごしやすい気候になりました。でも、まだ日により気温の差が大きいので、体調には充分お気をつけください。体力が低下すると免疫力も低くなってしまいます。既にインフル

エンザで休業となった学校も出てきています。学校では児童に規則正しい生活（早寝、早起き、朝ごはん）を心がけるよう、常日頃から話をしています。健康で気力、体力とも充実した秋を送りましょう。

また、令和元年度ももう折り返し地点に到達してしまいました。月日が経つのは早いですね。特に、6年生にとってはあと半年で小学校生活も終わりを迎えてしまいます。卒業までの一日一日を大切に生活して欲しいと願います。

後期に向けて（前期終業式、後期始業式に話したことの抜粋）



○4月からたくさんの勉強をしました。いろいろなことが分かり、多くのことができるようになりました。勉強は人のためにするものではありません。人に勝つためにするのでもありません。いろいろな欲望や誘惑に打ち勝ち、自分の目当てに向かって進んでいくことで成績が上がります。それが自分に勝つということ。成績の上った人は油断しないで、下がった人はがっかりせず自分に勝つよう努力しましょう。

○わがままをおさえて、教室の友だちみんなが気持ちよく勉強したり生活したりできるようにしましょう。

○体育の授業だけでなく、休み時間は外で元気に遊んでしっかりと汗をかき、身体を鍛えましょう。身体を鍛えると、心も鍛えられます。健康な身体があってこそ、充実した学校生活が送れるものです。

○”できることを増やす””今より成長する”ことを期待しています。特に「あいさつや返事」は大切です。これからも元気なあいさつ、きちんとした返事を心がけましょう。

○本を読みましょう。最初は自分の興味で読んでもいいですが、いろいろなジャンルの本を読んでほしいです。図書室では、児童の皆さんに読んでほしい本がたくさんあります。ぜひ、図書室を利用しましょう。ゲームやテレビの時間を少し読書に変えるといいですね。

○今年度は、古山小学校創立50周年です。本校の良き伝統と歴史を受け継ぎ、これからの古山小学校の未来がより明るいものになるよう、皆さんでこれから何が出来るか、何を残すことができるかしっかりと考え、生活していきましょう。

先生だって勉強しています！！



本校では、児童の学力向上に向けて様々な研修をしています。校内ではもちろん、校外で行われている研究会、研修会にも夏休みなどの長期休業を活用して自主的に参加し、少しでも本校の子どもたちが伸びるよう努力しています。内容は、授業についてはもちろん、危機管理、保健・給食関係、教育相談関係等多岐にわたっています。特に、今年度は特別の教科となった道徳については、県の教育委員会から指定を受けて、研究に励んでいます。そんな先生方の校内での研修会の様子をちょっとお見せします。



【全国学力・学習状況調査結果】（栃木県平均正答率との比較）

- 実施日 平成31年4月18日（木） ○実施学年 第6学年
 ○実施教科 国語、算数
 ◎ 上回っている（5ポイント以上） ○ やや上回っている（5ポイント未満）
 - 同程度（±1ポイント程度） ▽ 下回っている

【6年生】

国語		算数	
全体	○	全体	○
話すこと 聞くこと	◎	数と計算	○
書くこと	○	量と測定	◎
読むこと	▽	図形	▽
伝国	○	数量関係	-

【6年生】

国語、算数とも全体的にやや課題が残る結果でした。中学校への進学に備えて、今のうちから弱いところを強化していく必要があります。安定した力をつけるためには、毎日地道な努力を続けることが大切です。中学生になると学習内容も難しくなり、学習内容も増えます。そのときになって慌てることのないようにしたいものです。学校でも、自分の考えを文章にまとめて書くこと等、「書くこと」を手段としてじっくりと考える習慣を付けることと同時に、問題を繰り返し解き、実感とした理解が得られるよう、根気強く指導していきたいと思えます。

○国語に関わらず、どの教科もそうですが、必ず自分の考えを書く習慣をつけると良いでしょう。特に、誤答はどうして間違ってしまったのか確認し、考え方を修正していくことが大切です。
 ○算数は、立式の過程も書いて残して見直す習慣をつけると後々理解が進みます。思考の過程を意識することができるからです。書いて、丁寧に問題を解く習慣を付けましょう。

○毎日決まった時間に最低1時間は自主学習をしてください。また、復習も大切ですが予習も率先して行いましょう。予習をすることによって、安心して授業に臨めますし学習内容の理解が進みます。卒業までには小学校の学習で積み残しのないようにしたいものですね。

小中クリーン作戦で中学生と学校をきれいにしました！



9月24日（火）に石橋中学校の生徒（本校卒業生）と本校児童とが一緒に清掃活動を行いました。

中学校からは、1年生から3年生まで百名以上の生徒が来て、一生懸命学校をきれいにしてくれました。さすが、中学生です。普段手の届かないところまで、丁寧に清掃してくれました。本校児童も、中学生を見習って一生懸命働く姿に感心しました。



みんなときどうしますか？

今回は、学校へ行き渋ったり、引きこもってしまいそうな子どもたちへの言葉かけについて、ちょっと考えてみましょう。

- 子どもの立場で嫌だなと思った言葉
 ①「いつになったら登校するの？」②「嫌な理由は？原因は？誰が？」③「今週、今月は何回学校に行ったの？」④知り合いに「どうして行かないの」と聞かれたり、説教されたりした。
- 子どもの立場で良かったと感じたこと
 ①情操を豊かにしようとペットを飼い始めた。②仲の良い友だちと交換ノートを始めた。いろいろと励ましてもらえた。③「進級よりも、きみの生き方を心配しているよ」と言われた。④できないことを叱られるより、できることを褒めてもらえるようになった。

これは、あくまでも子ども側の考え、思いです。子どもが嫌だなと思った言葉は、親だったら心配で言うってしまうのが当たり前だと思います。それが普通です。だからそこに不登校解消の困難さがあるのだと思います。もちろん、理由によっては「学校に行かない」という選択をした方がよい場合もあります。

でも、成長し社会に出たらもっと厳しい現実が待っていることは、大人ならだれもがわかっていることです。社会人として今の複雑な世の中を生き抜くための準備をすることも、学校という集団生活の大切な役割です。ですから、私個人または教師としての願いは、集団での活動を通して「楽しさを分かち合うことや、ちょっとした困難に負けない強い心を育てる」ことを学校生活を通して学んでほしいということです。そこを考えると、ともすると子どもの気持ちに寄りそうことに囚われすぎ、子どもの望む方ばかりに流されてしまう傾向が多いように感じます。あくまでも子どもにとって今何が一番大切な、重要かということ（＝学校で友だちと触れあう、学業）を考えて子どもと向かい合うことが大切でしょう。

※ 児童の活動の様子や学校行事等については、学校ホームページに掲載していますのでぜひご覧下さい。
 学校HPアドレス http://www.school.shimotsuke.ed.jp/e_school/koyama/

こちらからもご覧になれます →



